

一般事項

概要書

様式第1〔共通事項・その1〕

(1) 建物概要	工事名称	川越中学校体育館			工事種別	新築・増築・改築・大規模の修繕		
	所在地	三重県三重郡川越市・区 町・村			用途	体育館		
	延べ面積	m ²			階数	地上2階・地下0階・塔屋0階		
	構造種別	RC+SRC+S	建物高さ	16.8 m	軒の高さ	7.7 m	高層指針の 構造的高さ	m
電算機の 利用	メーカー	ユニオンシステム			プログラム	SSI (USZ)		
	指定番号	BCJ-電136			使用機種	NEC PC9821		
	適用範囲	基本計算・応力計算・断面算定(保有耐力)その他()						
	適用条件と のかねあい	適合する						
高層指針 の適用	X	1	2	3	4a	4b	5	
	Y	1	2	3	4a	4b	5	
構造設計 方針	<p>本建物の屋根は、片持柱上にヒン支持で支えられた立体トラス構造である。このトラスを受ける柱のみSRC造とし、その他のフレームはRC造とする。架構形式は、XY共に、2Fは片持柱で、1Fは耐震壁付ラーメン構造とし、ゆいゆいの主いまい様に耐震壁をバランスよく配置し、ルート相当の壁量を確保させている。立体トラスと下屋は別々に解析を行う。このとき、立体トラスは片持柱の水平性を考慮して解析し、その反力の下屋の解析を行う。下屋の応力解析は部分的に剛床仮定をはずした立体解析によった。尚、下屋については、3つの剛床部分に分割し、地震力は全体をまとめて外力分布を求め、剛床の各々に重量比で分配する(3剛床の位置は列紙参)。偏心率、剛性率は建物全体で検討を行った($\beta=1.0$)。柱、梁の断面算定は$\beta=0.2$で検討した。基礎形式は、GL-33.9mのN値50以上の砂れま層を支持地盤とする杭基礎とした。</p> <p>本建物はルートを満足するか、XY共に保有水平耐力の検討を行う。又点の浮上かりと圧壊を考慮させた、建物全体で検討するか、剛床性か成り立たないため、2FのF_sは最大値2.0、1FのF_eは最大値1.5を採用し、安全率1.5倍以上確保させた。</p>							
構造設計担当者	(設計事務所名)			(担当者名)				
	(TEL)							

注) 1. 次頁のフローチャートは該当するフローを各方向ごとになぞること。 (サイズ:A4)
 2. このチェックリストの各構造欄は、該当するものを提出すること。
 3. 選択肢の欄は、該当する項目を○で囲み、必要に応じて()内などに記入すること。
 4. ●印部分は、認定プログラムによる処理のアウトプットの添付で可。